



2025年7月1日〜7月31日分

## 未来式

川柳のほか短歌や俳句などもあるよ

## 金粉短詩系文藝ショー

### 復活公園⑤

並べてみて「しまったー」と思ったのだ。どこでどうなったか分からないが、そのうちのいくつかの句が重複している。あれま、これじゃあ、一日10句という約束（おお、一体誰の？）を破っちゃうことになる。そりゃあいけねえ。約束を破ることだけはしちゃあ、いけねえ。と突然思い立って、10句作る。と、あれま、また見つかった。何から永遠がー重複がーこれは黄色い色で示したが、もしかしたらまだあるかもしれない。しかし、重複した句を読むときに気づいたのだが（どうわけでもなく、前から気づいていたのだが）同じ句に触れると、一回目よりも一回目の方がよく感じられるものが多いという感じ。つまり、駄目な句でも、一回であえば、かなりの確率で、ヒラッてもらせるものも出てくる。二回読めば、まあ、味がでて、親しみがでて、というところは、それとばれぬように、とどこどこに、前に出てきた句を少しづつ紛れ込ませていって、サブリミナル効果によつて「あ、いいやん、これ」というように読ませる方法もあるかもしれない。しかし、絶対的にいいものは、一回読んだらその読んだものを一生離さないという句だ。これだけは譲れん。

7月1日（火曜日）分

■短歌

また道のこと歌うねと君笑ひ道のことか歌わぬとわれ笑う

■俳句

裏道やサマードレスの花盛り

■川柳

胃カメラをお変わりくださいありますか？

みじん切り頑張りすぎて粉になり

天満橋って何が満ちているのかしらね？

龍宮という言葉聞くのも嫌になる

いつまでもやっていいのかこの人生

出張の帰りに酒を飲みまくる

1泊も2泊も一緒3泊する

助け舟出ないのならは六開けろ

赤ん坊泣いてばかりじゃだめですよ

くだらないこと書いたスマホを落としちゃう

7月2日（水曜日）分

■短歌

出口なのかおトイレなのか教えてもこちらにしても僕は行かない

■俳句

かわりを賣いて戻りたるころに水

■川柳

日記帳今頃になって出てきました

背が高い人とその次に高い人

曇り空雨降らないから大丈夫

保証付きの人生一度は読みたい

それでもね最後には死んじゃうんだよね

ガラス張りの人生みたいなんですね

中国語喋り出したら止まらな

ネパールの人にぞっこん惚れました

ラブレターばかり考え日を過す

曲がり角曲がったところに君がいる

7月3日（木曜日）分

■短歌

君だけが君のことだけが満たしてて頭に地図がない状態なんだ

■俳句

冷房を消しといてくれという遺言

■川柳

真つ暗の思い出超えて君に会う

大雨が降り出したからやめとこ

どこまでも乗っけてってくれないかな

一晩中君を抱いてたい気分

そんなことをしたら朝はフラフラだ

フラダンス踊る大また発見し

肌の色透き通るほど綺麗です

堂々としてりやいいんだよわかんねえ

嘘つきと騙され上手な。アです

だんだんと嫌になってきたら死ぬ

7月4日（金曜日）分

■短歌

本棚と世界の裂け目のその中に

大切なものがみんな落ちてる

原型

何かと何かの裂け目の中に大切なものが落ちてる感じがするね

■俳句

雨乞いのどの神にするか未だ決めず

■川柳

りんこの皮を剥きながら生きてゆくんだ

キャベツ切りまたキャベツ切りキャベツ切り

身長がジャックの豆の木ほどの豆

僕イクラ君はウニだろ引き分けた

診断の結果次第で飲みまくれ

誰からの電話も取らねえ出張中

送電線だらけの地帯に僕の夢

ホステスとそのホステスの愛人と  
ホスト刺し意気揚々と引き上げる  
例えばどこまで行けばお前納得する？

7月5日(土曜日) 分

■短歌

誰にも気づかれないように歌作るスマートフォンに語りかけて

■俳句

流行の熊たちと寝るキャンプする

■川柳

電車が埋まるプールがある

## 無法地帯で踊る

それはその俺の人生そのものだ  
どこからでも切り裂きなさいジャック君

## 墓場なら1回くらい行こうかな

## どれでもいい誰でもいいよ俺の生

学生の性生活の話聞く

お茶漬けとのり弁当なら2つ食う

理事長の席に無断で腰掛ける

支社長に意地悪をしてやめさせる

ネパールの人にぞっこん惚れました

ラフレターばかり考え日を過す

曲がり角曲がったところに君がいる

7月6日(日曜日) 分

■短歌

こんなにも地下深く降る雨として

夏の吹上ンホール見る

■俳句

プールごと温泉地へと売り渡し

■川柳

真つ暗の思い出超えて君に会う

大雨が降り出したからやめとこ

どこまでも乗っけてつてくれないかな

一晚中君を抱いていたい気分

そんなことをしたら朝はフラフラだ

フラダンス 踊る大また発見し

肌の色 透き通るほど綺麗です

堂々としてりやいんだよわかんねえ

嘘つきと騙され上手なベアです

だんだんと嫌になつてきたら死ぬ

重複に付き追加10句①

長すぎるから×にしてやっただと、入試の手伝いなのにそんなことを

言つて僕を驚かせた非常勤講師の時期の同僚ノアサクラさん今どこで

どうしているのでしょうか、と言つても2019年あたりにあつたか

ら、そんなに昔というわけではないけれど、頻繁に会つてたころのこ

とが思い出されるので、そつちの方の印象が強いので、何十年も会つ

てない気がするね

## 雨に濡れてぼろぼろ

尻すぼみするくらいなら出撃しない

空中に浮いた気持で出直して

逆上がり何度言つたらわかるのよ

パンティの中身かそれが、どつちです？

一目散に逃げてきたから自慰める

どうでしょねこの子つたらと足番の

宿題をやつてないのに大きな顔

小学校の園師はみんな墓の中

7月7日(月曜日) 分

■短歌

## 京セラとかケセラセラとか言っけれど

## どつちも同じ特に意味なし

■俳句

毎日がピーチパラル影をゆく

■川柳

りんこの皮を剥きながら生きてゆくんだ

キャベツ切り またキャベツ切りキャベツ切り

身長がジャックの豆の木 ほこの豆

僕イクラ君はウニだろ引き分けた

診断の結果次第で飲みまくれ

誰からの電話も取らねえ 出張中

送電線だらけの地帯に僕の夢

ホステスとそのホステスの愛人と

ホスト刺し意気揚々と引き上げる

例えばどこまで行けばお前納得する？

重複に付き追加10句②

焦つたねこんなに焦つたことはない

流儀でもリウマチにでもなりやがれ

発作的に告白して逃げてゆくあのコ

やめてくれくというあの歌は何の歌

ドキュメント番組を見て泣きまぐる

遼くまで聞こえる電話はないかしら

父母に謝りたいことが一杯

三叉路でおいてけぼりにされるやつ

猫娘みたいな彼女はどうしたん

熊だらけのこんな日本に誰が舌

7月8日(火曜日) 分

■短歌

## こんなにも雨降つたりなんかするんだな

## 僕の出かける第一歩から

■俳句

いつの日か夏休みなき人になり

■川柳

ずぶ濡れの気分の君と僕と君

傘あればいいのになあ 傘あればいいのになあ

## 停電になった時刻に僕止まる

人生はロボットだらけ 鉄パイプ

あれ見ろよひらかたパークが萌えている

遠目にも火事だなんては見えません

わしゃわしゃと笑うじじいのデマだった

わしの弁当だ 取るな 猿

右側の扉が開いて落ちて行く  
この味はお酢が3杯多すぎる

7月9日(水曜日)分

■短歌

気がつけば三角州の中心に

ポツンと立ってる僕だけがいる

原型

気がつけば三角州の中心にポツンと立ってる僕だけがいる

■俳句

日射病とは何のことだったのか

■川柳

ネパールの人にぞっこん惚れました

ラフレターばかり考え日を通す

曲がり角曲がったところに君がいる

真つ暗の思ひ出越えて君に会う

大雨が降り出したからやめとこ

どこまでも乗つけてつづけないかな

一晩中君を抱いていたい気分

そんなことをしたら朝はフラフラだ

フラダンス 踊る大また発見し

肌の色 透き通るほど綺麗です

重複に付き追加10句③

トメイトウすりおろしたら赤スープ

さりげなく耳元で囁く人がいる

瘤癪餅なら初めから言ってくれはいいのにさ

先にいっていいかと聞くから駄目だという

杏子の実をくれたので混ぜて飯

津波が来るのが心配で海にゆかぬ

何歩でも歩けるだけ歩いてね

トイレが近いのでトイレに住む

この先のこと考えりゃ生きてない

7月10日(木曜日)分

■短歌

鬱陶しい天気なんだなこんなにも毎日幸せに生きてる俺なのにね

■俳句

墓前にて暑中見舞をしたためり

■川柳

堂々としてりゃいいんだよわかんねえ

嘘つきと騙され上手なペアです

だんだんと嫌になってきたら死ぬ

りんこの皮を剥きながら生きてゆくんだ

キャベツ切り またキャベツ切りキャベツ切り

身長がジャックの豆の木ほどの豆

僕イクラ君はウニだろ引き分けた

診断の結果次第で飲みまくれ

誰からの電話も取らねえ出張中

送電線だらけの地帯に僕の夢

7月11日(金曜日)分

■短歌

これならばずっと待っていられますこんなに静かな思い出の中

■俳句

水室にて我が体温を確かめる

■川柳

ホステスとそのホステスの愛人と

ホスト刺し意気揚々と引き上げる

例えはここまで行けばお前 納得する

チヨコレート 頬張って口を確かめる

本日〇勝一敗これからだ

予想では 山椒一杯 逆転だ

同じような屋根 ばつかり見え 見栄っ張り

どんなことでも聞いてくれると息巻いた

か細いなか細い声で話す人

電車の中でカラオケ大会はやめろ

重複に付き追加10句④

3つだけいいの? 倍気ないと言つなよ

いやほんま、そんでええのやほんまにほんま

なるほどね、そんなに言うならもうしとく

7月12日(土曜日)分

■短歌

自分のこととどんでんアピールするやつにくなやつはいねこれは

確信

■俳句

阿蘇まつり遠き記憶の滝の裏

■川柳

火を見やより明らかとはどういうことだ火を見るより明らかに説明し

てくれ

笑っちゃう気分はちよつと危険です

泣きたいと思うのなら泣きなさい

そうですねいいメンバーに出会ったな

同窓会 メンバーは自分で決めるもの

決別だもう決別だ 決別だ

同僚とその同僚の孫娘

こんもりとした森の中野糞する

中野サンフラザ 再興計画を立てる

ついでなら新宿アルタももう二度

7月13日(日曜日)分

■短歌

なんだかね変に自信をつけてるね留學帰りの意気上がる人

■俳句

雷鳥の目を我がものに海を見し

■川柳

そういえば夜中 ルタで待ち合わせたね

こいつなら全然やめる気がしない

途中まで考えちまう癖になる

思い出が全部消えても構わない

また次に作る友達へストウン  
丹波橋駅前で雨降り出した

どんなにか待っていたかもしれませんが  
雨傘の形をしたしっぽ持つ人よ  
やいゆえよ初めて文字にしてみます  
マスターズに出ますか 小學生だけどう？

7月14日（月曜日）分

■短歌

南禅寺も銀閣寺も全部燃やしちゃうとすれば金閣と横ひと並び

■俳句

## ラブホテル玉虫色の恋のあと

■川柳

ピギナースブラックを全部俺にくれ  
君たちの処女も全部俺にくれ  
アホタレとコテンパンにやられたい  
陵辱の末に天下を取る男  
優秀な人だけピックアップする  
鉄橋を渡った先に何も無い  
ツバクラメの蔵とはどんな蔵ですか  
水田に落っこち稲になっちゃう  
横並びの法則で今カニが勝ち  
要するにスピードだぞとクレームは

7月15日（火曜日）分

■短歌

## 真っ暗な世界の中に僕がいて

### 横の世界にまた君がいて

原型

真っ暗な世界の中に僕がいてその横の世界にまた君がいて

■俳句

空疎の中で眠る

■川柳

クリームみたいな石鹸みたいなクリーム 食べる

いななきが近づいてくる牧場だ  
そりや無理だと文句言うやつ 売り飛ばす  
この肉がいくらで売れるのかしらねえ  
僕のこといくらで買ってくれますか？

雨降りは晴れた日より頼もしい  
サンク拉斯かけたら夜になりました  
三船敏郎の歌声が 天より響く 恐怖  
かいつまんで話してくれよ チャーハンの作り方  
焼き鳥のことなら誰よりも詳しいぜ

1つだけつたえたいこと3つある  
誰よりも真摯に生きて早く死ぬ

## 草原のその向こう側ワニがいる

ろくなことない最近の幸せ感  
ソノシートで自分の声を聴いていた  
太当たり持って帰っていたのです  
焼き肉を食べたりおイタ焼いたり  
三重県引き受けながら今日をゆく  
背の高い君ならばまた過去がある  
女性的男性というのはどんなのだ？

7月16日（水曜日）分

■短歌

たまにねえどこまで行っても京都だぜ京都で京都だ胸糞の悪し

■俳句

■川柳

それよりも 川で泳ごう流れてく  
いよいよだというパセリみたいな言葉  
どれだけの人にもわからない感じ  
自撮り棒 だ持ってる人もいるんですね

## あの店の2階の売春宿の部屋

悲しいね自慢げにはしゃぐ女たち  
うさったい過去を自慢する 男  
どんとんと出張なのに雨が降る

自己主張をしたい人にだけ降れ、豪雨  
まもなくだとアナウンサーが言っている

7月17日（木曜日）分

■短歌

## ゆつたりとした心持ち俺が行く

### 琵琶湖疏水の記念館まで

■俳句

風薫る秘密の道とそのゆくへ

■川柳

しかしそれ人じゃなくてニね  
戦おうとするものならばこを明け  
雨の日の何ひとつなまずがしきよ  
白線を上からなぞり思くして  
工事中の音を左耳で聞き

## さわやかに天高く飛べばぐれ馬

とことんという言葉の中身のなさ笑え  
リスク回避する方法があれば選はない  
天の上めがけて爆撃機を放つ  
地震ならやる後に必ずついてくる  
どうですかアントニオ猪木よりすごいなら

7月18日（金曜日）分

■短歌

疎水べり歩いて行った日もあった流れて行った日もあったけど

■俳句

## 銀河なり心につつかえたるものよ

■川柳  
丸き物口より外に出てゆきぬ  
部屋の中ぐるぐる回る人は誰？

## 朝毎にぽよんぽよんとするのです

客船の窓から世界眺めてる  
オレンジを絞る心の中の型  
スピードを上げすぎ流線型になり  
ホームランボールを三つゲットした  
大谷くんまんまる顔になりました  
マスクして丸顔半分隠してる  
茨木のどこかに落とした丸い壺

7月18日(金曜日)分

■短歌

誰も知らないふりして横を向く

そいつあまりに変なんじゃない?

■俳句

涼風の故さえず知らずかつ進み

■川柳

体重が増えず朝も夜も抜く  
ビール飲む瞬間だけが命です  
英語劇見ながらお好み焼きの丸  
エキスポとその前の日のエキスポと

## 田と田隣接地帯に我ら住み

ゲームとて生きてる生きてる生きてゆく  
どなたにもわからぬように丸死ぬ

## 弱冷車になんか乗るものか

地道耐えられずハイウェイで我ら

## お隣は白きうなぎの女の子

7月19日(土曜日)分

■短歌

静かだね 静かすぎる昼日だね  
こんなにも 僕 大人びている

■俳句

水鏡物語して2人ゆく

■川柳

いつの日に失いたるや夏休み  
夏休み一緒に行くと言ったのに  
夏休み絵日記の呪い降りてくる  
夏休みヒトデと海月と人だらけ  
どこまでが休みでどこからが引退?  
正確に物言う人に石を投げ  
悠々としているフリは疲れるね  
イッたふりするのだって疲れるよ  
神隠しと神頼みのこと間違えて  
頂上でハグしたつもりが熊だった

7月20日(日曜日)分

■短歌

## 充実の1日ならば

## 壁際を歩いたことも悔やまれず済む

■俳句

青峰を望みて生誕58年

■川柳

えろ過ぎる神様助けにきてください  
君のこと捕獲したくて走り出す  
夕風の頃まで二度戻つてる  
やつぱりさ助けに来てよここにいます  
電話だけでもください待ってます  
話すぎ朝になつたことある  
悲しすぎ ばかになつたことある  
あと1つ教えるまでに消えてくれ  
電車までビデオ画面の泥濘者  
愚縁の太いメガネの女の子

■俳句

冷夏来るわれら兆の渡来人

■川柳

## おつとて自信をもつて生きてゆく

これまでに聞いたことない音色です

これまでに一番好きな香りです  
さまざまという女なら直想する

## 立体の中は何色? なまこ色

指折つて数える積もりが痛すぎた  
再再度やるからいまから脱いでくれ  
注射なら氣を失つた前のこと  
流星に引かれて誰かに文句付け  
サザンクロスサザンクロスでございます

7月21日(月曜日)分

■短歌

どうなればこんな人に行き着くか少年決して降りることなし

■俳句

## 蟬時雨わなわなと啼くものもあり

■川柳

息を止め花も塞いで目も閉じて  
一応さ聞いてくれただめだよな  
嘘まないで飲まないでいていつまでも  
口にする覚悟で君に決めました  
メソジスト教会の前で待ってます  
いつの日もペンテコステのお祝い  
であらあど歌う人だね中也だね  
に降りる時あり乗る時も  
めちやくちやに笑っておやり憎いなら  
惜しやねもうちよつとだけだったのに。

7月22日(火曜日)分

■短歌

行員は矢のこととは言つけれど矢は必ずやフーメランとして

■俳句

## 影長し我ら同類にて責めじ

■川柳

絵日記と蚊取り線香の季節です

絵日記と蚊取り線香とまみの声

あの花この花全部君の為  
ささやいたことは嘘はありません

## 扇風機 of 回転に合わせて歌います

遊牧亭に惹かれるように街をゆき  
この先はどんな苦難もありはせぬ

## 虫が逝き大逝き猫逝き君も逝く

後頭部に突き付けられた銃口

飛び込めよ、いちにのさん、だ、そろ今だ  
どんな日も、答えを待っているのです

7月23日（水曜日）分

■短歌

## 動物園の裏側を歩く日々には遠哭きの声

■俳句

冷夏は何てんなものそんなものの

■川柳

とんでもない匂いを嗅いで飛び上がる  
どこまでも仔猫みたいな人ですね  
そういえば、やんちゃな仔猫行きました

脛出して両肘出してガツンガツン  
あれまあまあ優先座席に座るバカ

コロンボのビデオボックス見まぐつて  
年明けの忘年会の招待状

スモークエッグにつが朝食なんです

この辺でやめとき潮時別れ時  
顔面のゆがんだ性格わははは

7月24日（木曜日）分

■短歌

大雨の1日の中始めれば決して減速することのなし

■俳句

## 土用なり用に足らざるものを焼き

■川柳

2

ちよつと待てスピードだけが勝負だぞ  
留年をするからいいのと君は言い

ピーチ姫みたいな君のほっぺです

ささんかが咲き始めたら帰ります

こりやどうも癖になります気持ちいい

流水が流れすぎていたたた

祖母とほろ祖父はソフトが好物で

松木さんそんなに膨れちゃ嫌ですよ

歌うにもラーメン食べてからにしませんか

飲み過ぎて顔がビール色

7月25日（金曜日）分

■短歌

## どうやってこじ開けて

## ここ入るのか教えてくれる人誰一人なし

■俳句

梅雨明けやさんさんと咲く花の形

■川柳

アホとボケ音痴の三重苦だと君

ダットサン持った時代が俺の花

喚いても散らしても夕メ掃除して

## お掃除は得意なんだと口先で

ねはねはとするものの正体指し示し

プラモデル作り上げて乗って帰る

## 鶏からと僕とどっちが好きですか？

サンダルを履いたら裸足じゃなくなるね

## 冗談と思っていたら嘘だった

## 切なくて走り出したくなっちゃうね

7月26日（土曜日）分

■短歌

分厚い本書き上げた今やることはそいつを爆弾に仕立て上げるのみ

■俳句

## 月下美人方違えして我も咲く

■川柳

ああ苦行苦行苦行苦行です

これこそ終わった天国といつも言い

また高樹？どこまで行ったら夜になる？

## 夜にさえなればこっちのものですよ

金の卵生む馬がいたら雌牛

## ねえジャック何だいジルと猫話す

トムボーイ僕のところにもユウラ二つ

## 目が覚めると牛になっていた

キャンペーンレディにじゃんけんて勝つ

電話してその後ほひ。み。つ。

7月27日（日曜日）分

■短歌

目的は偉そうに言うやつのごとく暴走キリ降り走り去りなん

■俳句

## 胡蝶蘭憧れしものみな逝きて

■川柳

そんなこと駆け出しの人に言うか？

エル空間とか勝手に名前つけてもわからん

冗談のような月日が過ぎてゆく

寝ることに悪夢が増えるだけで

## 冗談で言ったことが地図になる

歴史なち争い争い争いはありません

ゆくゆくはJR 乗つとり社長になる

ピンク色のジャケットは少し派手

魔流島は何県ですか？と武蔵歌き

ここからは泳いで帰れますので

7月28日(月曜日)分

■短歌

恩師の力強き声受話器から聞こえてくる日にやっと出立をて

■俳句

## 夏の月はしに引掛かり止まりおり

■川柳

疲れても疲れてもする日課

おっぱいが大きい人から逃げてゆく

親指が長くて靴下みんな破れ

新大阪流れるように蕎麦を食べ

歴史的失敗ならば覚えてろー

なんでまたお前を手放さう暇がいる？

色とりどりボンで部屋を埋めてます

鳥がなく様子を真似て僕もなく

特急の後から走ってついてゆく

霧々峰登ってみたらただの峰

7月29日(火曜日)分

■短歌

跳ね上がるこの喜びの日々の中々つとむつしり腰据えてゆく

■俳句

星涼し私の恋路のなれの果

■川柳

どつちから食べてもいいんですよ2人

どこから響るかかわかんないねこれじゃ

響られてああ響られて消えてゆく

身長が違ふことを忘れてた

Stand By Me を歌いながら死体見やる

アパートが火事になったら住めないね

暑すぎてクーラーばかり眺めてる

思考停止の同僚の隙ついてみる

ハゲならばハゲらしく生きる術もある

そんなもの差別主義だと言ってくれ

7月30日(水曜日)分

■短歌

堂々と堂々と行け俺の生恥すかしげもなくまたこれ見下がしでもなく

■俳句

夕風に乗りたる頃の流行歌

■川柳

街角に出て勝負するべらんめえ

それならばもう2周ほど走ろうか

座るより立つてる方がやりやすい

どつちが遠くまで飛ぶから競争しよう

やっぱりねそれじゃだめだよ素人だ

あの子はね唐揚げのことしか頭にない

ぶっ飛ばし抜かされるまでは我が天下

抜くくらいお任せすくにでもするよ？

本当なの？嘘なの？いつも真面目なの？

両端をゆっくり離してピン！

7月31日(木曜日)分

■短歌

これまでに書いてきたものが全て消えしまったらどう思ったね？

■俳句

夏雷常に頭の中に住み

■川柳

100くらい笑ってる間にすぐ済むよ

確かにね人生だつて110年

100以上入ると真っ赤になっちゃうよ

100いへんは買ってくださいすか

100キロを1時間なら余裕だね

なぜ自転そんなに速くなっちゃった？

髪の毛を逆立てながらお弁当

愛妻のために作るよお弁当

## たくましい想像力で父母未生

## 漱石のすごろく買って家でする